

北神けいろうの国政報告：6月号

日頃より大変お世話になっています。

今回の不信任決議案をめぐる政界の混乱については、恥ずかしい、情けない気持ちでいっぱいです。菅政権には、当然、改善すべき点は多々あります。しかしながら、10万人前後もの被災者が避難所に未だに詰めており、原発事故も見通しが立たない中で、「激流の中で馬を乗り換えるべきではない」と考えてきました。不信任決議案に対しても、最初から反対の姿勢を貫いてきました。

ところが、とりあえずの分裂を回避できたものの、その後は、菅総理の辞任の時期をめぐる茶番劇がつづいています。

私自身、今の国難に直面して、与野党を超えた「挙国一致体制」が必要だと確信しています。「ねじれ国会」の中、なおさらです。こうしたことから、先月、民主党と自民党の若手議員が集まって「民自連」という議員連合を形成しました。私はその事務局長を仰せつかっています。

その趣意文の概要は、次のとおりです。

「東日本大震災は被災地はもとより、我が国全体に極めて甚大な被害をもたらした。しかも、福島第一原発の事故はいまなお進行中である。いま我が国はまさしく戦後最大の国家的危機のさなかにあり、今こそ政治の総力を結集しての迅速かつ果敢な対応が求められている。

大切なことは政党、政治家がこの国難に際し、党派を乗り越えて一致協力することである。とりわけ、復旧・復興のための予算とその財源、その実施体制等については、決してこれを政争の具にすることなく、叡智を結集して速やかに合意をなし、

被災地の方々はもとより、幅広く国民各界各層の賛同を得ていかなければならない。

ところが、国政の現状は、震災前とさして変わりのない状況が続いていることは誠に残念かつ遺憾なことである。復旧のための対策が全体として遅れ気味になっているのは、現政権の対応にも問題点があることもさることながら、一方で、相も変わらぬ与野党の攻防と駆け引きが続いていることにも大きな原因がある。国民は今こそ政治力の結集を求めている。目下、我々に党内抗争や政局にうつつを抜かしている暇はない。

今まさに我が国は興亡の分水嶺に立たされている。この機に当たり、与党第一党たる民主党と野党第一党たる自民党の責任は限りなく重い。本会は、かかる問題意識を共有する両党の同志が合い集い、一切の党利党略を排し、挙国一致の精神を基に、被災地の復興と新しい日本の創造を期するものである。」

すでに、本「民自連」で、先日、菅総理に「この国難のさなかに国会を閉会すべきではない」と提言をしました。総理も方針を翻して、国会の大幅延長を決断しました。しかしながら、未だに自民党をはじめ野党は、早めに国会を閉会すべきだと主張しています。これでは被災地復興のための第二次補正予算の審議も遅れてしまいます。原発事故の不測事態にも対応できなくなります。こうした状況の中で、当然ながら、国会が夏休みをとることは許されません。

大連立という形にはこだわりません。やらなければならないことを自民党をはじめ野党と協議して、合意さえすれば、協力体制をつくることは十分可能です。

今後も、挙国一致体制、そして、その前提となる挙党体制を構築するために、奔走していく決意であります。